

「要援護者」への具体的な支援

支援の必要な立場の人を「要援護者」といいます。普段の暮らしの中で、室内、屋外の安全確保や情報の提供など、きめ細やかな接触が必要です。



支援の必要な人から

自分の力での避難は困難と思えば、防災組織や行政区などに、率直に申し入れておきましょう。防災組織では、気軽に申出ができる雰囲気づくりをするのも重要な地域活動になります。

名前だけ、かたちだけの防災組織？

防災組織の役員になっているけれど、活動したことがない。などというような組織では意味がありません。地域ぐるみの具体的な活動があってこそ「自主防災組織」です。

防災活動の要、リーダーの存在！

リーダー無くして「自主防災組織」は成り立ちません。しかし、いくらリーダーばかりしっかりしていても、まわりのみんなの協力がなければ組織の力は発揮されません。リーダーを中心に、みんなで協力しあって災害に強い「自主防災組織」を育てましょう。



観察、考察、協議する

日頃から、“防災の目”を持ち、地域内の危険箇所や今後危険になりうる場所を観察しましょう。それを一旦考察し、後はみんなで問題箇所を持ち出し協議しましょう。全員参加、全員思考で地域の安全づくりに貢献です。



知っておきたい応急手当

ワンポイント

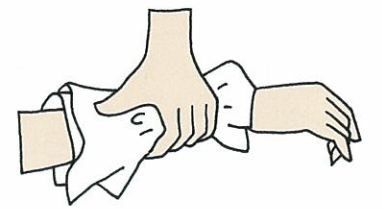
応急手当は知識がないと何もできません。もしもの時のためにも、最低限の知識は覚えておきましょう

応急処置はするしないとは、生命が危険にさらされている場合、致命的になるかならないかの分かれ道になります。尊い命をみんなで助け合うため、いざという時のために知っておきたい知識です。

出血・骨折

直接圧迫止血

きず口に清潔なガーゼやハンカチをあてて、手でしっかりおさえたり、包帯を少し強めに巻いて圧迫します。この方法が最も基本的で確実な方法です。



間接圧迫止血

きず口より心臓に近い動脈（止血点）を、手や指で圧迫して血流の流れを止めます。

耳の前での止血

耳のすぐ前で脈が触れる所に親指をあて圧迫します。

わきの下での止血

わきの下のくぼみの中央から、親指で上腕骨に向けて血管を圧迫します。



骨折—固定法

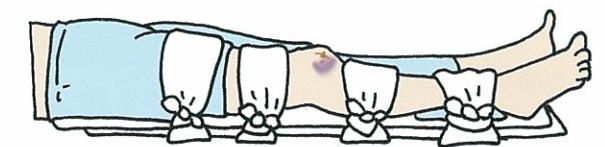
骨折部は1箇所だけとは限らないので、全身をよく注意して調べます。

前腕の骨の骨折

肘関節から指先までの長さの副子を、骨折部外側と内側からあて固定します。どうしても移動しなければならない時には、必要に応じて腕を吊り、体を固定します。

ひざの骨折

臀部からかかとの先までの長さの副子を、下肢の裏側にあて固定する。膝と足首、かかとの部位にはタオルなど柔らかいものを入れておきます。



※副子…骨折部の動揺を防ぐためにその上下及び体にあてる支持物のこと。患部の上下の関節を含める十分な長さ、強さ、幅を持つことが望ましい。